森林と人をつなぐかながわ森林インストラクターの会　　平成２５年８月１日発行　通巻第２０９号

森のなかま

２０１３年８月号
ＮＯ．６４（継続２０９号）

ＮＰＯ法人かながわ森林インストラクターの会　http://www.forest-kanagawa.jp　　発行人　久保　重明
〒243－0014　厚木市旭町１丁目８－１４・グリーン会館　ＴＥＬ046－280－4101・ＦＡＸ046－280－4102

「小田原の森へいこう！２０１３」が開催されました。

場所：小田原こどもの森、小田原いこいの森

平成２５年５月２６日（日）

かなりんちゃん

＜　坂齋　明　7期　、　女川　修　9期　＞

県民との協働による森林づくり実行委員会主催による「小田原の森へ行こう！2013」が**毎年5月の第4日曜日の“かながわの森へいこうの日”**である5月26日（日）に小田原市久野（小田原こどもの森公園わんぱくランド、小田原いこいの森）で開催されました。例年どおりかながわ森林インストラクター12名が案内役を務めさせていただきました。一般参加者は70余名（半分程が子どもさん）と少なめでしたが、好天に恵まれ皆さん爽快な気分であったと思います。森を歩くコースは2コースで行なわれました。

開会式

① 歴史コース（スギ巨木林と小田原の歴史を訪ねる）

歴史コース　辻村氏の説明

最初に森林の地権者である辻村氏から「辻村山林・農園」の概要について説明があり、300年もの歴史があることを知る。入口からしばらくはフィールド・アドベンチャーの施設ともなっており、みんな観察に集中できない。それでも足もとに真っ赤に熟したクサイチゴを見つけると子供たちの歓声が上がる。事前に辻村氏のお許しがあったのでみんな夢中だ。樹齢300年近いスギを含む森林はさすがに見る者を圧倒する。「御小屋」（おこや）と言われる稜線の道に出ると再び辻村氏による解説。かつては私設の発電所があったことや森林にかける思いを語られた。往路でいろいろな葉のにおいをかいでもらったついでに、帰路で見つけたニガキの葉を「かむと苦いよ」と言ってちぎって配ると、興味津々の男の子が「オエーッ！」で大爆笑。

② 森の探検コース（森のクイズとウォークラリーを楽しむ）

参加者はほとんどが子どもさんで、コースを歩くヒントが書かれた地図を頼りに歩き、コースの途中にいる森林インストラクターの出す森林に関係するクイズに答えながらゴールを目指しました。
コースの途中には遊具も設置されていたため、遊具に夢中になり、予定時間をオーバーする参加者も出ました。参加者はクイズにウォークラリーに楽しい一日を過ごせたのではないでしょうか。

森の探検コース
（インストラクターの説明）

緑の募金

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。

森林部会　『　人口林整備技術研修会（下刈り・鎌砥ぎ）　』

場所：南足柄市塚原「塚原フィールド」　６月８日（土）

講師インストラクター：　富樫文衛氏　6期、小野幸広氏　7期、松山隆治氏　10期

＜　森林部会　酒井房次郎　１０期　＞

「　たかが草刈り　されど下刈り　」

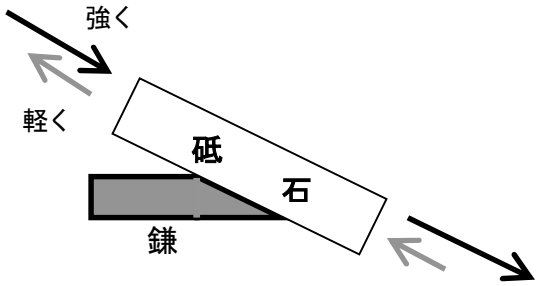
吃驚！　目が覚め、指を伸ばすが、ロボットの様に関節がギクギクとする。嗚呼疲れた、きつかった、昨日の下刈り。久しぶりに自らをしごいた。曇りであったが夏日のような日、県民参加の下刈り面積約三区画を参加者 14 人で刈った。

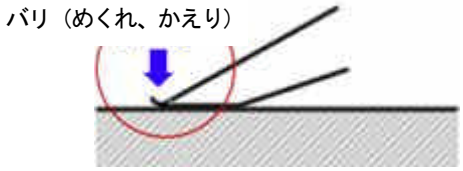
私の今回研修参加目的は、通常の下刈り以外に、地を這うような柔らかいジャノヒゲや笹類を大鎌で刈る技術習得であった。そして区画の一部に一週間ほど前の下刈り作業が未完成な場所も含まれていて、1mほどのヒノキの植栽木にヤマノイモ・オニドコロ類が巻き付いていたり、植栽木の足元が刈り残されている箇所があった。大鎌でツル類を根元より伐り、坪刈的下刈りをする絶好の練習にもなった。幹に食い込むように巻き付いた細いツルを、短時間で大鎌の刃先で伐るのは危険が伴う作業であったが、それなりの成果があった。

根元が刈り残されたカツラ

午前・午後の計1時間半、講師の富樫さんより鎌砥ぎの実習があった。手引き書以外で印象に残った点は、刃先の角度30度に砥石をしっかり当てる・脇を締める・慣れた人は砥石を背から刃先、刃先から背へ上下に動かしてもよい・仕上げ後、刃の後ろに少しバリ（めくれ、かえり）が出ているくらいでよいなどである。鎌砥ぎを終え、多くの人が富樫さんに検査してもらい、「合格です」と言われるまで再度挑戦するほど熱中した実習であった。

鎌砥ぎの基本姿勢





会員が作業経験を重ね自らの技術能力を向上させるための機会は、一県民として森林づくりボランティアに参加する以外ほとんどない現状である。そのために自己練磨の場を設定し、信頼される指導者を育てたいがため、森林部会が道具を借りに行き返還の労をとってまでして研修を実施している。しかし、参加者は12期生1名・11期生2名、そのほかは講師・リーダーを除くと8名の参加であった。下刈り作業は十分身についているのだろうかと、この現状を憂えるのは私一人だけであろうか。「たかが草刈り、されど下刈り」松山・小野両リーダーの声が心に残った下刈り研修であった。

『　横浜開港祭　２０１３　街頭キャンペーン　』

臨港パーク　６月８日（土）、９日（日）

＜　普及啓発部　部長　足立　功　4期　＞

世界に名をはせる国際都市・港ヨコハマ、今年は第５回アフリカ会議が行われ、その影響で１週ずらして６月８日、９日に開催された横浜開港祭で、例年通り水源の森林づくりキャンペーンが、私たちの会と（公財）かながわトラストみみどり財団の協力で行われました。

会場の臨港パークでは国際都市にふさわしく、世界各国の自慢料理を販売するテントがずらりと立ち並んでいい匂いが漂い、ステージでは入れ替わり立ち代わりショーが行われ、天気にも恵まれて、お祭り気分は最高に盛り上がっていました。

そんな賑やかな雰囲気の中で私たちは、ガラガラポンのくじ引きで商品が当たる緑の募金と呼び込みで来場者を誘い、応じてくれた人にはまず、「水は森林からやってくる」の紙芝居を見てもらいます。５枚の絵を使って演者それぞれの個性を発揮して解説しますが、それにも増して説得力抜群なのは森の水源涵養力の実験で、「緑のダム」としての森の能力のすごさに、皆さん一様に驚きとともにうなずかれます。それから会員手作りのお土産の品をもらって、インストラクターの指導を受け、丸太を円盤に斬り、それを使い思い思いのデザインで小枝や木の実を使って「どんぐり工作」をします。出来上がった作品を袋に入れて持ち帰るときには皆さん嬉しそうで、特に子どもたちが、満足げな様子たっぷりに見えました。

２日間で来場者は 703 人（大人 322 人、子ども 381 人）、募金も合計で約６万円集まり、お陰様で成功裏に終えることができました。

翻翻（へんぽん）と翻る
＜開港祭り＞の旗

朝の設営準備に忙しいインストラクター達

開始前のミーティング
各々の持ち場と流れの確認

さあ～受付開始！！

みどりの募金に応募のお子さま

やった！！一等賞
親子で商品選び

大切な森林のお話と
実験

紙芝居

丸太切りに挑戦
＜疑似間伐体験＞

ドングリ工作に熱中

２人で仲良く作りました

水涵養機能実験

（写真：伊藤　恭造氏　7期）

私の認識

野鳥その１１２　　高橋　恒通

今月は我国で観察できる海ガモで代表格のスズガモ（漢和名：鈴鴨、英名：Greater Scaup、体長L＝45 ㎝）についてご案内します。

スズガモは冬鳥ですが、北海道東部では越冬ならぬ越夏をする個体も普通に存在するそうです。

成鳥♂の体色は、粗雑な見方をすると、ビギナーでなくても前稿で紹介のキンクハジロの成鳥♂に紛れる程、キンクロハジロの体色によく似ております。その共通点を挙げますと、嘴の先端が黒色であとは鉛色、頭部から胸前までが黒色、虹彩が金色、脇腹が白色の点です。そして異なる点は、スズガモの背面は白色地に黒色の細い波状斑のある点と後頭部にキンクロハジロの様な冠羽が無い点です。因みにキンクロハジロの背面は黒色です。もうひとつ相違点を挙げますと、スズガモの頭部の黒色はキンクロハジロの様な紫色の金属光沢が殆んど見えず、むしろ光の加減で緑色の金属光沢があると私は認識しております。

従ってビギナーの方に覚えて貰いたい同定のポイントは、スズガモ成鳥♂の後頭部には冠羽が無く、背面が灰白色で頭部に緑色の金属光沢が角度で僅かに見える点です。更に興味深いのは、成鳥♀の体色がキンクロハジロのそれに酷似している点です。その共通点は♂と同じ嘴の色、虹彩の金色、頭部から背面の褐黒色、胸前から脇腹にかけての褐色の点です。逆に相違点はスズガモ成鳥♀の後頭部に冠羽が無い点、そして嘴の付け根から顔前面が白色の点です。

スズガモの棲息環境は、内湾、港、河口、海に近い池などです。私自身これまでスズガモを観察した場所は、皇居のお濠、浜離宮恩賜庭園、神奈川県下では平潟湾、そして酒匂川河口（但しここ7～8年は酒匂川河口でのスズガモは確認しておりません）でした。

スズガモの行動様式は、日中は波静かな内湾や海岸に近接した池や湖沼などで大きな集団となって休息します。そして夕方になると一斉に飛び立って海に出て行き、潜水して採食します。主に採食するのは甲殻類や貝類ですが、海藻類も食します。

スズガモの世界地図上での棲息地域は、繁殖がユーラシア大陸と北米大陸の北極圏を含む領域ですが、何故かグリーンランドは外れています。そして非繁殖の越冬域は、イギリス、地中海の北岸地域、中国北東岸、日本列島、アリューシャン列島、北米大陸の太平洋岸と大西洋側のニューイングランド辺で、いずれも海に面した細長い領域です。

いずれにせよ我国で内湾など波静かな場所に夥しい類の集団で昼間は休息しておりますから観察は容易です。

私の僅かな経験ですが、神奈川県下では冬の平潟湾がイチオシと思っています。そしてその大集団の中に“コスズガモ”と呼ばれ、体色は♂♀共にスズガモと同色の個体が時々混じっている事があるそうです。これはその名の通り体長約 42 ㎝位です。バーダー界の迷鳥ですから載せてない図鑑の方が多い位です。所が、コスズガモは北米大陸ではアラスカ南部からカナダのブリティッシュコロンビア州、アルバータ州、そして米国ワシントン州、アイダホ州、オレゴン州、ネヴァダ州、カリフォルニア州北部域で繁殖し、越冬はメキシコ、フロリダ州を含むメキシコ湾沿岸域など広い領域だそうです。私の叔母の孫で、オレゴン州の聖書大学の学生で無類の鳥好きが、「オレゴンでは日本でコスズガモと呼ばれるカモが港湾でいくらでも観察できますヨ」と言っていました。興味と機会のある同志はどうぞ。

〈参考資料〉

◎日本の野鳥，山渓ハンディ図鑑７，写真・解説／叶内拓哉，
分布図・解説協力／安部直哉，解説（鳴声）／上田秀雄，山と渓谷社
◎鳥 630 図鑑、財団法人　日本鳥類保護連盟

◎　（イラスト）　広報部　　大塚　晴子

活動短信

今回の掲載　6/4～6/22
投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号以降の掲載になるものもあります。予めご了承下さい。

ビワ（枇杷）

◆ 横浜市立南小学校　足柄体験学習

日　6月4日（火）、晴れ
場　矢倉岳コース、足柄峠コース
参　小学5年生88名、教師11名
イ　矢倉岳コース　L西出⑫、武者⑦、小林(保)⑨
小沢⑨、小林(富)⑩、加藤(久)⑫
足柄峠コース　L村井⑨、中村⑪

二泊三日の学校行事の最終日に、地蔵堂から矢倉岳と足利峠に分かれた登山と自然観察を行いました。下見の際は、ノフジ、ミズキがみごとでした。また、自然観察に時間をとりすぎた経験から本番は、登山に集中することに決めました。当日は30分に一回の休憩をいれ、目ではヘビイチゴ、マムシグサ、オチャノキ、鼻ではサンショ、手ではスギ・ヒノキの葉、コケ植物、川の冷たさ、耳ではホトトギスの鳴き声の自然と口ではおにぎりを堪能していました。矢倉岳(870m)では富士山は見えませんでしたが、明神ヶ岳、駒ケ岳、神山、金時山の箱根連峰は見えました。昼食後に記念写真を撮影し下山となり十二分に注意して下りました。最後に、足柄峠代表の「植物を知ったのが良かった」、矢倉岳代表の「山が良かった」との感想とお礼の言葉を受けました。早い梅雨入りのなか天気にも恵まれ、事故もなく良き一日でした。

（記　加藤　久雄　12期）

◆ 横浜市立岩崎小学校　間伐体験

日　①事前学習　5月24日〔金）　10:25～11:55
②間伐体験　6月　7日(金)　10:30～14:30
場　①岩崎小学校
②相模原市緑区長竹・承継分収林
参　小学5年生50名、教師等9名
財　古舘様
イ　L小野⑦、井出①、堀江④、鈴木⑧、波多野⑪

林業に携わる人々及び林業が抱える問題点について5/24に井出・小野の2名が当校にて90分間2クラスに分かれて授業（事前学習）を実施した。

現地での実地学習は6/7に長竹にて間伐と森林に関する講話を行った。心配された雨も昼食時のみで曇天の為、厳しい暑さも無く作業は班毎に2本のヒノキの伐倒から枝打ち、玉切り、コースター作りと順調に進んだ。鋸を使う事が多くの生徒には初めての体験でありその危険さを意識させる為口うるさいほど注意、特に枝打ち時の近接作業時には気を使った。教室の授業と違って自然の中での作業は空気・匂い・小鳥のさえずり等すべてが大変新鮮に体感出来たことと思う。林内ではクサイチゴが赤い実を沢山つけていて生徒たちにはこれも得がたい体験となった。天も味方し、午後には時折太陽も顔を出し、全員事故も無く終了した。

（記　小野　幸広　7期）

◆ 三菱倉庫株式会社
森林再生パートナー森林活動

日　6月8日（土）、 曇り時々雨・後晴れ
場　足柄上郡山北町世附字日影山「三菱倉庫の森」
参　三菱倉庫　社員42名
県　後藤様
イ　L齋藤⑥、相馬⑤、大道⑥、小沢⑨、
西出⑫、加藤(久)⑫

開会の前までに、道具の準備、班エリアおよび間伐木の確認（特に道路沿いには電線が敷設されているための注意）、その他の最終確認を済ませ、三菱倉庫の皆様の到着を待ちました。到着後「三菱倉庫の森」看板を囲んでの記念撮影、スケジュール、注意事項の説明後に、齋藤リーダーより絵を用いた間伐作業の話、県の後藤様の挨拶、インストラクターの紹介、ストレッチを最後に各班(5)の指定地へ出発しました。

この森は、良く枝打ちがされ、樹高も 20mぐらいと高く整然とした印象をもちました。活動中にいちじ雨となり心配しましたが伐木作業に影響はなく、各班ともに間伐、枝掃い、玉切り、コースター作りと一連の活動を無事に終了しました。

昼食をはさみ各班の発表を済ませ、三菱倉庫の皆様は次の予定地大野山へハイキングに向かわれました。インストラクターは、解散ミーテングを行い何事もなく予定通り完了したことを確認し解散となりました。

（記　加藤　久雄　12期）

◆ みどり・みらい・JA50の森
樹木名ベルト付け作業

日　6月9日（日）　10:30～11:30
場　相模原市緑区鳥屋　JAパートナー林

参 JA職員40名
県 1名
市 相模原市1名
ｽﾀｯﾌ 鳥屋財産区2名、鳥屋造林組合6名
イ L清水③

平成9年にカツラ、イロハモミジ、ヤマザクラ、ヤマボウシを植樹、その後鹿の食害にあいミツバツツジ、アセビを補植し下刈りを続けてきたが、下刈も終了しパートナー看板の設置を機に約80本の樹木名ベルトを取り付け、一区切りとする作業を実施した。ゆったりと林全体を眺めながらの作業で、水源を守る活動の重要性を参加者全員に再認識して頂いた。

（記　清水　正己　3期）

◆ 横浜市立西寺尾小学校
上郷・森の家宿泊体験学習

日 6 月 11 日(火) 13:30～20:30、 雨
場 横浜自然観察の森
参 小学 4 年生 52 名、教師 7 名ほか
イ L渡辺(孝)③、増子③、高崎④、出口④、
堀江④、武者⑦、渡部(公)⑦、海野⑩

ねらい:自然観察をしながら、動植物に興味を持たせ、草等を使った遊びを教え、夜ホタルを観賞する。

活動内容:午後から雨が降り出し、カッパを着、自然観察は足元等安全に注意しながら行ったが、予定コースの半分程散策した。又草笛を教えたり、タラヨウの葉に文字を書かせたり、木の実が実りだし五感を利用させながら観察をした。夜は雨が小降りになったので、平家蛍を観賞した。

感想:雨が降り続いたことは残念であったが、雨の中幼虫を含めかなりの数の蛍が確認できて、児童は興奮していたようであった。飛んでいる蛍は少なかった。

（記　武者　直　7期）

◆ 横浜市立都田小学校　愛川体験学習

日 6 月 13 日(木)、 雨
場 愛川ふれあいの村
参 小学 4 年生 63 名、教師 8 名
財 古舘様
イ L小沢⑨、高橋③、高崎④、
村井⑨、松山⑩、 永松⑫

今年は空梅雨で下見は晴天だったのに当日は雨、でもこれも大切な体験。事前に学校より“雨天時は体育館で「森林の働き」についてのレクチャーを”との依頼があったので井出さん作成のパワーポイント「森林の話し」を使い、高橋さんが説明を担当。動きがある画面と経験豊かな高橋さんの説明に子供達は真剣に聞き入っていた。その後高崎さんが今はやりの科学実験を行う。試験管に 2 液を入れ振り混ぜると不思議な光が！先生や子供達から歓声があがる。そして「自然界で発光するものは？」の質問に沢山の子供達が手を挙げ「蛍」と答えた。蛍の光が熱を帯びない光線であることを易しく説明し、宇宙でも使われているという話しは興味深かったようで、その後の質疑応答も活発な展開となった。質問の時間をとったことは全員で情報が再確認出来てとても良かったようだ。その後一緒に昼食をとったときにも愛川の植物や動物についての質問が出たので下見の時に出会った花や生物、鳥などの話しをして雨天時学習は終了しました。

（記　永松　裕子　12 期）

県民参加の森林づくり　(No1)　下刈り

日 6 月 15 日(土) 8:00～13:30、晴時々曇り
場 小田原市　久野　(一部事務組合有林)
参 募集参加者 84 人、 (申込者:97人)
財 鳥海様、豊丸様　看 青木様
ｽﾀｯﾌ 小田原市　松山様
イ L小野⑦、友谷①、国分③、加藤逸⑥、武者⑦、松田⑦、村井⑨、酒井⑩、山口⑪、中村⑪、吉田⑪

天気不明の中 84 名とたくさんの参加者に感謝。皆さんやる気が充分。現場は塔ヶ峰の北側斜面。この場所はどんぐりの森として5，6年前に小田原市が整備した場所とのこと。見上げると45度もありそうな急斜面。各自にヘルメットと鎌を配布。全体説明と注意の後、5班に分かれて作業開始。

植栽の木は1mほどに成長したものもあればまだ50cm程度で草に隠れているのもある。配置分散して大鎌を振るっての下草刈り開始。空を見れば青空に。日光が照りつけむっとした湿気を感じる。水分補給を頻繁に行うよう、疲れる前に休息して熱中症に注意。梅雨明けの作業のようだ。皆さん急斜面にもかかわらず果敢に取り組んでいる。作業場所は広いがみるみるうちに草が刈られた綺麗な斜面になっていく。

草の中にクサイチゴや黄色いモミジイチゴがある。摘んで食べると甘酸っぱい香り。初夏の味。あっと言う間

に昼食時。急斜面から下を見ると壮観。こんなに働いたんだ。

昼食後の森林講話。木材の値段が10分の1以下にも下がってしまったのが森林が荒れている最大の要因とのこと。森では安くても町まで運ぶのが高いから利用できないんですね。

（記　吉田　郁夫 11期）

◆ 横浜市立汐入小学校　箱根体験学習

日 6 月 21 日（土）及び 22 日（日）の 2 日間

場 箱根ビジターセンター（21日）
駒ケ岳～神山登山（22日）

参 小学 4･5 年生 （21 日　70 名）（22 日　64 名）
教師 （21 日　9 名）（22 日　7 名）

イ L女川⑨、堀江④、佐藤⑤、滝澤⑤、水口⑨、
杉崎⑩、上宮田⑪

登山＆観察で箱根の自然（土）に触れさせたい！との担当の先生の直向な思いをうけ　学校との調整役の堀江さん、女川リーダーによる細部調整のもと雨バージョンと晴れの日のスケジュールで下見調整し待機。

・ 1日目（小雨） 自然観察会（箱根ビジターセンター～桃源台～ビジターセンター）

インストラクターは早々に箱根入りし最終下見と打合せを済ませ予定通り　12時30分に一行を乗せたバスと合流7班に分かれて桃源台までの約2時間の自然散索に出発です。

初めて出会う多くの植物（ヤマボウシ・スイカズラ・ウツギ類・ヒメシャラ）に触れゴマギの香りや山椒の香り（実）に思い思いの表現！ヤマグワやモミジイチゴの初試食！美味しい！もっと食べたい！モリアオガエルの卵塊を見ながらその生態にも触れ　驚きの表情！

・ 2日目（晴れ） 箱根園～ロープウェイ～駒ケ岳山頂～神山山頂～大涌谷

予定より1時間遅れるも念願の登山日和で皆元気に駒ケ岳山頂に集合。

芦ノ湖・駿河湾・相模湾・そして富士山（この日は山頂付近を望むのみ）と眼下に広がる大パノラマを堪能した後　早速登山の開始です。

雨後のぬかるみと岩山の急降下山時が心配されインストラクターはロープ持参（背負う覚悟で）準備しましたが一人として脱落者なく　皆元気に下山することが出来「登山愉しい！」「また行きたい―」と　達成感一杯の感想でした。「児童はじめ先生方もとても楽しく過ごせた事、その事に対するインストラクターへの感謝とねぎらいのお言葉が　後日リーダーの元に届きました。

（記　上宮田　幸恵　11期）

◆ 株式会社鈴廣蒲鉾本店　森林間伐体験

日 6 月 22 日（土） 10:00～12:30、 晴れ

場 やどりき水源林「恵水の森」

参 鈴廣顧客様　15 名

スタッフ 鈴廣本店　2 名

県 後藤様

イ L山崎⑦、 西出⑫

天候が心配されたが、朝から青空が広がる天気となった。我々3名は9時に集合して、道具をそろえた後、現場の下見をして選木を行った。10時過ぎに参加者とスタッフが到着し、挨拶、森林の講話、ストレッチを行い、2班に分かれて現地に向かった。

10時45分に現場に到着して、植栽から間伐に至る森林整備の話をした後、未経験者が多いため、伐倒の手順やヒノキの特性を説明して作業に取り掛かった。「恵水の森」は、間伐が進んで簡単に倒せる木が少なく、掛かり木になり易い木や大口径の木が多く残っている。案の定、1班が掛かり木状態となり、もう1班も掛かり木となったが倒す事ができた。時間も余りなかったが、倒した1本のヒノキから2班合同でコースター造りを楽しんだ後、ヒヤリハットもなく、12時10分に戻る事ができた。道具の整備を行って解散した後、我々2名は掛かり木処理のために現場に戻り、作業を行った後、13時15分に作業を終了した。

（記　西出　健一　12期）

人も自然もいきいき 丹沢

丹沢の自然再生に取り組む

丹沢大山自然再生委員会ホームページでご覧ください。　http://www.tanzawasaisei.jp/

略語の説明

日:日付、 場:場所、 参:参加者、
県:（神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課）
財:（(公財)かながわトラストみどり財団）
スタッフ 例　小田原市森林組合・XX様
例　川崎市公園緑地協会・XX様
看:看護師、 イ:インストラクター（○数字:期）

やどりき水源林 ミニガイド

7月のトピックス

神奈川県の県花ヤマユリです。

（寄大橋近くの崖　7月14日撮影）

8月の水源林

綺麗な川で大人も子供も思い切り遊んで、猛暑をのりきりましょう。

「森の案内人」情報

案内人も張り切ってお待ちしています！！

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前 10 時・午後 1 時，1～2 時間程度
●集　合：水源林入口ゲート前
●内　容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
＊10 人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
●問合せ：(公財)かながわトラスト みどり財団　TEL：045－412－2255
携帯：090-8580-5348
FAX：045－412－2300
● ホームページ：http//www.ktm.or.jp
● E-mal:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄（やどりき）」行き乗車約 25 分。バス下車後（案内板あり）川沿いに徒歩 35 分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 ＆ ご案内

『森のふれあい館　生きた昆虫展』

夏休み特別企画　(7.15)～8月31日(土)
神奈川県足柄下郡箱根町箱根 381-4
森のふれあい館
9時～16時半
入館料　大人650円
平日中学生650円、
　小学生400円
土日祝日の小中学生は無料
問い合わせ先：森のふれあい館 0460-83-6006
関連サイト：http://www.hakone.or.jp/morifure

◇　森のなかま原稿募集　◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

＜広報全般についてのお問い合わせ＞
松本　保
Mail：matsutamo@jcom.home.ne.jp
Tel：090－7962－3168

＜電子配信担当＞　赤崎　さほり
〒221-0865
横浜市神奈川区片倉 2-1-50
Tel：090-6150－6173
Mail：s_akasaki-k_instructor@live.jp

＜メール・手書き原稿送り先＞
【本誌】松本　保
〒246-0037
横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17
Fax：045-301-9401
電話連絡先：090－7962－3168
Mail：matsutamo@jcom.home.ne.jp
【別冊】水口　俊則
〒250－0871
小田原市下堀 123
Tel/Fax：0465－42－7240
Mail：minagold109@kjd.biglobe.ne.jp
【CC で】竹島　明
〒238－0045
横須賀市東逸見町 3-7
Tel/Fax：046－825－9281
Mail：2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp
原稿は随時受け付けています。

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html

編集後記

★三連休に式根島へ行きました。全周 12 kmのコンパクトな極相林に豊かな生物多様性、黒潮の恵み、湧き出す源泉、私の大好きな東京の自然です。
（赤崎）

★これから暑さが厳しくなる季節ですね。水源林の沢のせせらぎで涼を楽しみませんか？　（水口）

★　子供の夏休みに入り、夏本番です。先日私も軽い熱中症に成りました。油断大敵クワバラ、クワバラ！！　（小沢）

★木材をプラスチックの流動成形、金属のプレスの中間のような技術で素材を壊さず成形する方法が開発されつつあるそうです。期待したいですね。
（松本）

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。
郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。
振替用紙到着の翌月号から12回／1年間お届け致します。
（頒　価　200円　送料共）

編集人：　松本　保
事務局：　竹島　明
広報部：　小沢章男　水口俊則
鈴木　朗　鈴木松弘
大塚晴子　加藤暖子
赤崎さほり
支援　川森健司　谷川　克
一時休み　真貝　勝　徳岡達郎

8/24(土)　松田観光祭り（16 時～）と足柄花火大会 20 時～

観覧：松田町酒匂川町民親水広場等
問合せ：
松田町　0465-85-3130（観光協会）
0465-83-1228（環境経済課）

山や散策、水源林のつどいのお帰りにお越しくださいませ！

山 麓 の オ ア シ ス ㉒

（冷たいお飲み物もお待ちです）

こ　ま　ち

小田急　新松田駅踏み切り際

緑の募金箱協力店